

# サンゴのからだ

サンゴは石のように固いというイメージを持たれがちですが、  
実はイソギンチャクに<sup>きんえん</sup>近縁な生き物です

サンゴの表面をよく見ると、小さなイソギンチャクのようなものがたくさんついていることがわかります。これらの一つ一つはポリプと呼ばれており、見た目だけでなく、基本的な構造もイソギンチャクと同じです。

このポリプが集まって、一つのサンゴ<sup>ぐんたい</sup>(群体サンゴ)ができています。ポリプ同士はつながっており、栄養を分け合っています。

ただし、中には一つだけのポリプでできているサンゴ<sup>たんたい</sup>(単体サンゴ)もあります。

サンゴの仲間は、ポリプの<sup>しよくしゆ</sup>触手の本数によってグループ分けされており、トゲトサカやヤギなどは触手が8本なので「八放サンゴ類」、イシサンゴなどは<sup>はっぼう</sup>触手の数が6の倍数になっているので「六放サンゴ類」と呼ばれています。なお、イソギンチャクの仲間は「六放サンゴ類」に含まれています。

コマルキクメイシ



ポリプ  
(サンゴの本体)

サンゴの表面をよく見ると、ポリプがたくさん並んでいるのがわかる



ニホンアワサンゴ  
ポリプの直径は約5mm



シコロサンゴ  
ポリプの直径は約1mm

種類によってポリプのサイズは大小様々

ポリプの断面

